

手作り獅子舞 息災願う 三郷の特養で新年祝いの会



入居者の無病息災を願い、施設職員手作りに
よる獅子舞が披露された(施設提供)

コロナに
負けルナ

三郷市栄の特別養護老人ホーム「三郷さくら」の杜で、毎年恒例の「新年祝いの会」が行われた。例年は獅子舞保存会のボランティアや入居者家族らを招いて行う行事だが、今年はコロナ禍のため、施設職員が手作りの獅子舞を

披露し、入居者の無病息災を願った。

社会福祉法人桐和会が運営する同施設。施設では感染予防対策のため、外部から人を呼ぶことができない状況が続いている。家族との面会もガラス越しやオンラインに制限される中、入居者に少しでも明るい気持ちで新年を迎えてもらおうと、職員が手作りの獅子舞を企画した。

職員は約1カ月前から本番に向けて準備を進めてきた。段ボールやスズランテープなどの材料を用いて獅子のかぶりものを制作し、獅子舞を担当する職員はインターネット動画などを参考に動きの練習を重ねた。

本番当日は施設内の少人数グループを指すユニットごとに、太鼓や鈴などの鳴り物を交えてにぎやかな舞いを披露した。入居者からは「獅子舞にかんでもらって、いい新年を迎えられそう」「プロみたいで上手だった」など感想が上がった。

獅子舞を担当した職員の鈴木静香さんは「コロナ禍でご家族に直接会うことがかなわない分、入所者さまの生活を彩ることができるよう今後もイベントなどを企画したい。兼城貴子施設長は「入居者の皆さま、職員が楽しく笑顔でいられるような施設運営をしていきたい」と話していた。

(原望美)

県央

